



『“感謝”を伝える月に』

教頭：中津真貴子

12月。2020年、令和2年も最後の月となりました。カトリック教会では、今週から主のご降誕を待つ「待降節」に入りました。子どもたちは、この一か月間、これまでよりもさらに善行に励み、その実行を祝賀式でイエス様、マリア様にお捧げします。その記録の中には、周りの人たちにしてもらって、言ってもらってうれしかったことが綴られることもあります。

今回は一年を終えるにあたり、次の詩を紹介させていただきます。

<p>この手で 床を拭き 血を洗い 文字を書く</p>	<p>この目で 人に語り 心を伝える</p>	<p>ぬかるみを超えてゆく 日々の場面の傾きが 一年のいのりの道で あるように</p>	<p>古の書物は云う 「すべてのことには、 時がある」</p>	<p>あなたの願いが実るのは 明日なのか 十年後なのか わからなくとも 準備していきましょう</p>	<p>隠れたる神は今日も 誰かの瞳をとおして あなたの姿を そっとみている</p>
---	--------------------------------	---	---	--	---

服部 剛

一年の中で、わたしたちの生活の中には悲喜こもごも様々なことが起こります。しかし、一年を終える今、こうして自分がここにあること、無事に一年を終えようとしていることに、やはり見守ってくださる神様への「感謝」の気持ちが湧いてきます。よく子どもたちは、「神様はどこにいるのかな」と呟きます。この詩の六連目にあるように、わたしたちの周囲の人々の中に存在しているのかもしれない。ということは、まずは最も身近な家族に、そしてわたしたちと関わるすべての方々に、この一年の「感謝」を伝えることが神様への「感謝」を伝えることにつながるのだと、この詩から感じました。

「待降節には・・・」学院宗教主事 Sr.鶴野 篤子

いよいよ12月！クリスマスシーズンです。キリスト教の暦では、この時季を「待降節」と呼んでいます。イエス・キリストの降誕(クリスマス)を待っている期間のことです。

この頃になると、世界中で、大人も子どもも若者もお年寄りも、心が温かく嬉しい気分になり、何故か家族や親しい知人に、愛の心や感謝の心を伝えたくて、あれこれ思索し、カードやプレゼントの用意を始めます。これは待降節の精神をよく現しています。子どもたちは赤ちゃんのイエス様を喜ばせるために、周りの人に進んでよいことをするのです。

旧約聖書によると、ユダヤ人(イスラエル人)は亡国の屈辱と悲しみの中にあって、いつか、きっと「救い主がお生まれになる」という預言者のことばに希望をおいて、何百年の間、熱心に祈り続けたのです。この預言が実現したのがイエス様のお誕生(クリスマス)です。今からおおよそ2020年前でした。毎年巡ってくる待降節の間、わたしたちはふさわしい心で救い主イエス様をお迎えしたいという思いで、優しい清い心になるよう隣人愛に励みます。

「クリスマスによせて」 同窓会 十八回生 江川一郎  
 クリスマスの思い出として今も心に残るのは、やはりプレゼントではないでしょうか。私の家族は、当時、姉、妹、弟と上から下まで四人が、この桜の聖母学院にお世話になっておりました。プレゼントの楽しみは、「中合」での買い物でした。屋上でミサイルタワーのぼつて、おもちやコーナーの買い物は、いまだに忘れられません。  
 兄弟姉妹が駅から電車に乗って家に戻ると、母が、「健ちゃん(弟)は？」とたずねました。姉も妹も私も、「しーらない！駅に忘れてきたかも。」と答えました。そこで母が駅に電話をしたところ、「小さな子どもがニコニコしながら東北線の電車をながめているようです。」という返事でした。  
 電車が好きで「鉄ちゃん」と呼ばれていた弟ですが、還暦を過ぎた今でも、「鉄ちゃん」をやっているようです。  
 遠い遠い昔の思い出ですが、クリスマスはカトリック校で学んだ私にとっては、なくてはならない大切な一日になっています。では、みなさん、よいクリスマスをお迎えください。ごきげんよう。

御礼と報告 - 「ベルマーク活動」「資源回収」 -

●11月7日(土)に今年度1回目の「ベルマーク活動」と「資源回収」を行ないました。委員ならびに2, 4, 6年生の保護者の皆様におかれましては、お忙しいところご参集下さり、ありがとうございました。また、各ご家庭からの日頃のご協力に対しましても感謝申し上げます。  
 【ベルマーク】合計24,339.1点でした。  
 【資源回収】 総量2,268kg 10,477円になりました。  
 \*次回は、来年の2月20日(土)です。

ご協力を！-募金活動-

●今年も児童会・奉仕委員会が中心となり『募金活動』を行ないます。めあては下の通りです。  
 『まわりの人を助けるために進んで行動し、困っている人のために募金しよう』  
 ●募金活動は、例年通り2回です。ご協力のほど、よろしく願いいたします。(奉仕委員会)  
 【第1回】令和2年12月 9日(水)と10日(木)  
 【第2回】令和3年 1月13日(水)と14日(木)

「3学期 行事予定の変更」について

●11月25日(水)に「主な行事予定表(家庭用：3学期修正版)」を配付いたしました。次の2点が年度当初と変更となっておりますので、再度ご確認ください。  
 ①1/16(土)保護者会⇒保護者会は実施せず。自由参観に代替  
 ⇒1/20(水)~1/22(金)自由参観期間\*午前中  
 ②2/1(月)~2/3(水)5, 6年スキー合宿訓練  
 ⇒「合宿」は実施せず/三日間とも「通い」

女子制帽「ボンボン」販売

●制服、運動着等と同様に、女子制帽のボンボンも販売しております。  
 ・販売店：Plaza A  
 ・価格：1個 250円  
 \*なお、Plaza Aの定休日は毎週火、水曜日です。

おめでとうございます~国語科~

●第61回動物愛護の作文コンテスト 『日本動物福祉協会 二等賞』 5年  
 ●「住みよい地球」全国小学生作文コンクール2020(高学年の部) 『優秀賞』 4年 『準優秀賞』 5年

「聖劇で身につくもの」~聖マルグリット・ブールジョワ生誕400年を記念して~

宗教科 定方 一悦

4年生の聖劇。今年は創立者の生誕400年にあたり、第1場でマルグリットが登場し、子どもたちと語り合いました。

長いせりふを正確に暗記した子。自分で動作を考えた子。今まで聞いたことがないほど大きな声でせりふが言えるようになった子。小さな演技やせりふの工夫一つ一つに、神様が蒔いた種が芽吹いたことを感じます。それは劇の中だけでなく、授業や委員会活動への積極的な態度からもわかりました。たくさんの奇蹟を見ているようです。聖劇の練習は必ず、「主の祈り」から始めます。そのせいか、神様はこどもたちに優しく働きかけてくださり、子どもたちはそれによく応えて、救い主が生まれた喜びを伝えることができました。

「博士でよかった」 4年

「天使たちが知らせた、うれしいできごとを見に行こう。」 ■さんが言いました。もうすぐわたしたちの出番です。友だちと、「がんばろうね。」と話しました。いよいよステージに出ました。練習とちがったことはお客様がいることです。「救い主がお生まれになった。遠いユダヤの国ベツレヘムに。」昨年より緊張せずに言えました。  
 わたしがこの聖劇で気をつけたことは、目線を上げることと笑顔で演じることでした。目線は講堂の柱、笑顔は特に歌を笑顔で歌うことに気をつけました。けれど、演技をしていくうちに自然に笑顔になりました。わたしは博士の役をやっていくうちに、「博士でよかった」と思うようになりました。出番待ちの時も、クラスみんなががんばっているのを応援することができました。帰りの車の中で、母が、「喜びが伝わってきたよ。」と言ってほめてくれました。これで終わりではなく、クリスマス祝賀式で他の学年にもイエスさまがお生まれになる喜びが伝わる聖劇にしたいです。



↑ 4年：聖劇「喜びのおくりもの」